

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-26957

(43) 公開日 平成8年(1996)1月30日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 1 K 7/32

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平7-185068
(22) 出願日 平成7年(1995)6月29日
(31) 優先権主張番号 P 4 4 2 3 4 1 0 . 4
(32) 優先日 1994年7月4日
(33) 優先権主張国 ドイツ (D E)

(71) 出願人 591010376
バイヤースドルフ・アクチエンゲゼルシャ
フト
BEIERSDORF AKTIENGE
SELLSCHAFT
ドイツ連邦共和国デー-2000ハンブルク
20・ウンナシュトラッセ48
(72) 発明者 フロリアン・ポルフ
ドイツ・デー-20251ハンブルク・フズマ
ーシュトラッセ2
(74) 代理人 弁理士 小田島 平吉

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 α 、 Ω -アルカンジカルボン酸およびオリゴグリセロールのモノカルボン酸エステルに基づく消臭活性化化合物配合剤

(57) 【要約】

【目的】 化粧用デオドラント用の消臭活性化化合物配合剤。

【構成】 1つまたは複数の α 、 Ω -アルカンジカルボン酸、およびI I) ジーおよび/またはトリグリセロールの1つまたは複数のモノカルボン酸エステルの混合物を含む化粧用デオドラント。

1

【特許請求の範囲】

2

【請求項1】 1) 1つまたは複数の α 、 Ω -アルカンジカルボン酸、および11) ジーおよび/またはトリグリセロールの1つまたは複数のモノカルボン酸エステルの混合物を含む化粧用デオドラント。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、化粧用活性化合物配合剤、特に化粧用デオドラント (deodorant) における有効成分としての活性化合物配合剤に関する。 10

【0002】

【従来の技術】 化粧用デオドラントは、それ自体無臭である新鮮な発汗物が、微生物によって分解される場合に、形成される体臭を除去するのに役立つ。慣用の化粧用デオドラントは、種々の有効成分に基づいている。

【0003】 いわゆる制汗剤においては、発汗の形成は、アストリンゼント (astringent)、主としてクロルヒドロキシアルミニウム (アルミニウムクロロヒドラート) のようなアルミニウム塩によって抑えることができる。しかしながら、皮膚タンパク質の変性と 20 は別に、この目的に使用される物質は、それらの投与により腋窩域の熱的バランスに徹底的に干渉し、殆ど例外的場合において使用されるべきである。

【0004】 皮膚上の細菌相は、化粧用デオドラント中の抗菌性物質の使用によって、減少させることができる。理想の場合には、臭いを発生させる微生物のみが、効果的に減少されるべきである。しかし、実際には、皮膚の全微生物相が、損なわれるかもしれないことが分かった。

【0005】 発汗の流れ自体は、それによって影響され 30 ず、そして理想の場合には、発汗物の微生物分解のみが、一時的に止められる。

【0006】 一つの同じ組成物中に、抗菌活性のある物質とともにアストリンゼントを組み合わせることも、また通常のことである。しかしながら、2種類の活性化合物という不利益は、この経路によって完全に除くことはできない。

【0007】 結局、体臭は、芳香、せめて消費者の審美的要求に会う方法によって覆い隠すことができるが、体臭と香料の芳香の混じり合ったものは、むしろ不快に臭 40 う。それにもかかわらず、ほとんどの化粧品全般と同じ

11		12
セチルアルコール	2.00	1.50
磁油 DAB 9	7.00	7.00
PPG-15 ステアリルエーテル	4.50	4.50
メチルパラベン	0.20	0.20
ジプロピレングリコール	2.50	2.50
アジピン酸	0.80	-
コハク酸	-	1.10
DMC	0.30	-
DML	-	0.30
香料	q. s.	q. s.
水 10% NaOHでpH5に	100.00	
(実施例9～10)		
ワックススティック (無水)	9	10
トリラウリン	38.00	38.00
カプリル酸/カプリン酸トリグリセリド (“Miglyol 812 [®] ”)	29.50	29.50
ステアリン酸グリセリル、自己乳化	8.50	8.50
蜜ろう	21.00	21.00
アジピン酸	0.50	-
アゼライン酸	-	0.60
DMC	0.30	-
DML	-	0.30
香料	q. s.	q. s.
水 10% NaOHでpH5に	100.00	

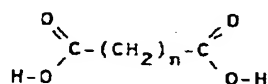
本発明の特徴および態様は以下のとおりである。

【0085】1. I) 1つまたは複数の α 、 Ω -アルカンジカルボン酸、およびII) ジーおよび/またはトリグリセロールの1つまたは複数のモノカルボン酸エステルの混合物を含む化粧用デオドラント。

【0086】2. α 、 Ω -アルカンジカルボン酸もしくは酸類が、一般式

【0087】

【化7】



【0088】[式中、nは、数字1～8を示す]で表される物質からなる群から選ばれることを特徴とする、第1項記載の化粧用デオドラント。

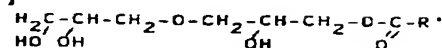
【0089】3. アジピン酸および/またはアゼライン酸が、 α 、 Ω -ジカルボン酸として選ばれることを特徴とする、第1項記載の化粧用デオドラント。

【0090】4. α 、 Ω -アルカンジカルボン酸もしくは α 、 Ω -アルカンジカルボン酸類が、各場合において、製剤の全重量に基づいて、0.01～10.00重量%、好ましくは0.05～5.0重量%の濃度で存在することを特徴とする、第1項記載の化粧用デオドラント。

【0091】5. ジグリセロールのモノカルボン酸エステルもしくはエステル類が、次の構造：

【0092】

【化8】

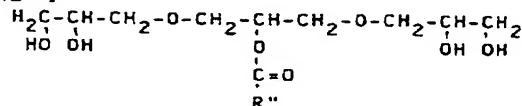


【0093】[式中、R'は、炭化水素基、有利にはC原子5～17個をもつ分枝または非分枝アルキルもしくはアルケニル基である]を特徴とする、第1項記載の化粧用デオドラント。

【0094】6. トリグリセロールのモノカルボン酸エステルもしくはエステル類が、次の構造：

【0095】

【化9】



【0096】[式中、R''は、炭化水素基、有利にはC原子5～17個をもつ分枝または非分枝アルキルもしくはアルケニル基である]を特徴とする、第1項記載の化粧用デオドラント。

【0097】7. ジーまたはトリグリセロールのモノカルボン酸エステルもしくはエステル類が、モノカプリン酸ジグリセロール(DMC)、モノラウリン酸トリグリセロール(TML)、モノラウリン酸ジグリセロール(DML)およびモノミリスチン酸トリグリセロール(TMM)からなる群から選ばれることを特徴とする、

13

第1項記載の化粧用デオドラント。

【0098】8. I) 1つまたは複数の α 、 Ω -アルカンジカルボン酸、およびII) ジーおよび／またはトリグリセロールの1つまたは複数のモノカルボン酸エステルの含有量は、I) およびII) の比が5:1～1:5、特に約1:1に形成されるように、選択されることを特徴とする、第1項記載の化粧用デオドラント。

14

【0099】9. ジーおよび／またはトリグリセロールのモノカルボン酸エステルもしくはエステル類が、各場合において、製剤の全重量に基づいて、0.05～10.00重量%、好ましくは0.1～5.0重量%の濃度で存在することを特徴とする、第1項記載の化粧用デオドラント。

フロントページの続き

(72)発明者 ベルント・トラウベ
ドイツ・デー22457ハンブルク・クラウ
スーナンネーシュトラッセ61

(72)発明者 マンフレート・クリール
ドイツ・デー20521ハンブルク・イー
シュペヒトアレー11